

「幼児音楽教育夏季講座を受講して」

(リトミック)

小野智子

“Summer Seminar of Music Education
for Little Children ”
About Rhythmic

Satoko Ono

(Received Sep. 30. 1983)

幼児の音楽リズム講座を担当してみると考えなければならない問題が多くあるのに気付いた。特に幼児音楽教育はこうあるべきだという型はないから、多くの面から考慮した指導をしなければならぬ。

理論的に理想をかかげる講座より、実践的に生きた音楽リズムとして少しでも役に立つ講座を私自身が求めていたのである。

リトミック教育の面では宮崎はまだ未開拓の分野で理解も薄く、研究会などのチャンスも少ない。8年前、国立音楽大学でリトミック幼児講座を受講したのがきっかけで、もっと研究してみたいと思っていたが福岡でも会が開かれているのを知り、それから3年間も受けることになったのである。

— 講 座 内 察 —

Aコース（初級）

- 器楽指導と運動会鼓隊の導入
- 幼児の発声は遊びの中から作られる。
- 現場に生かせる歌遊び。
- リトミック導入とやさしい伴奏法

Bコース（中級）

- 鼓隊の基礎から中級へ
- 今日から役立つ遊び歌
- 楽しい歌唱指導と歌の演出
- リトミックとやさしい伴奏法や即興演奏法

Cコース（上級）

- やさしい伴奏と即興演奏
- 今日から役立つ遊び歌
- 器楽における、タンゴ、ロック、サンバの指導と編成について
- リトミック

以上のように段階をおって複雑になっている。3段階で一応修了となり、さらに特別コースも受講できる。ABCと毎年続けて学習出来る者は次第に少くなり、受講者は園代表者が多いため、「毎年、交代ですから」という話をしていた。「多くの教師に分ってもらう」とのつもりが、少し分ってきたところで、選手交替となるのが園の実状らしい。仕方のないことであろう。

さて、幼児の音楽教育の指導法については固定化されたものはないということである。

幼児の発達には特に小さい時程、能力の差は大きい。そんな条件の中で教師は指導することの難しさを感じながら暗中模索をし、若くて経験の少ない教師は特に体でぶつかって努力しているのが実情である。

そのような教師の情熱、創意、工夫を全ての領域に導入しながら幼児に対する観察力をするどく持ち、その場に投げられる問題を流動的にとらえて解決指導するということによって指導の価値が生まれて来ると思う。

毎年、学生に「実習に於ける音楽リズム指導の反省」を書かせているが、実際、保育園や、幼稚園でリトミック指導をどの程度、実施しているか、また学生が授業参観したか、の程度で調べてみた。保育科実習生226名中、40名はあった。3年前はもっと少く15名のみにすぎなかった。もっとも、実習生が傾寄ったりしていればこの数字は確定的ではない。しかし、国立音楽大学教授板野教授（リトミック会長）も言っておられたように最近受講者が多くなり各地で研究発表がふえている。

現に宮崎県佐土原の保育園では、全園あげての合同のリトミックの時間があり、スピーカーから流れてくる音楽にのって、走ったり、「かめ」になって床をはったり、「兎」になって跳んだり、園児達は目を輝かせて、リズムに敏速に反応するのが見られる。それに心を打たれた感想文が多くみられた。この学生のレポートを見ると多くの園での方針や、そして学生がささやかではあるが音楽リズムの面に於いてリトミック指導、現場に生かせる歌遊び、器楽指導などの苦勞や喜びの様子がよく分り、私は心配もあったが、ほっとした一面を感じた。

私が夏期講座を受けに行ったのは大いに意味があった。それは新しい魅力ある時代の流れを、大いに取り入れる事ができたからである。

「リトミック」

ではここでリトミックについて述べよう。「リトミック」はスイスの作曲家エミール・ダルクローズが創始者で、彼は人間の精神生活のひろがりあるいは向上を音楽教育の目的と考え身体的活動をその中にとり入れることによって、その目的を具体化したのである。

リトミックは、リズム運動、ソルフェージュ（聴覚の訓練）、ピアノ即興演奏の三つの部門からなりたっており、音楽的感覚を高めるために作られたものであるが、その課程が音楽ばかりでなく、身心の発達のために効果的な方法であることが我が国でも認められてきた。

故小林宗作氏は、幼児期において最も適した教育法であるとして、総合リズム教育という名のもとに研究されて広められて来た。幼児のリトミック指導は、心理的、身体的発達段階に即した方法でくり広げられ、しかも楽しく、喜んで行動出来るものでなければならない。楽しみながら音楽に対して即時反応をし、しかも創造性と直感力もつくという殊のほか精神の集中力が育成されると云う点にリトミックの良さがある。

ではここで夏期講座を受講して特に印象的であったものを三つあげてみたい。

(1) 「器楽合奏の指導」

曲の内容もクラシックから新しい、ロック、サンバ、ブギウギ、チャチャチャに至るまであり、メロディー部分はレコードカセットで格好よく音楽を流してリズム楽器だけの即

ち、レコード鼓隊がある。昔は、大変骨折ってハーモニカ、木琴と合奏という形をとっていたようである。しかし昨今では幼児のオルガン、ピアノ塾に通う子も多くいることもあって、ピアノの使用もかなりみられ、運動会などでは手軽さもあって用いられている。

合奏の中にどうしてもはまらないリズムの取れない子には目で楽しむポンポンを振らせるとか、美しい旗を持たせて参加するなどのように心をくばればいろいろな組み合わせで一つの演技が出来る。

この講座でも毎年4～5歳の園児が2カ月位かかった研究発表の演奏と演技をするのであるが、実に可愛らしく、立派に仕上げている。さぞ指導者は大変だっただろう。それにつけても昨今の楽器も色彩豊かになり、制服も用具も全て揃えての演技は目をみはるものがあった。

(2) 「歌と今日から役立つ遊び歌指導」

この講座の高山講師は「教師は役者であるべきである」という。なる程、心に用意した演出で大きな瞳をパチパチさせながら表情豊かに動いたり笑ったりの話し振りは大人でもその気にさせられてしまう。

とにかく楽しい雰囲気を作りながらの指導は幼児の中の旺盛な好奇心を更にもり上げて、音楽演奏や音楽遊びをすることにより、喜びを味わわせるというねらいがうかがえた。

例えば絵書き歌一つにしても子供達の喚声を大切にしているの合作があるといわれる。今日の時代に合ったものが多い。

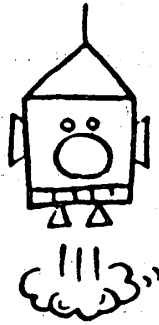
例 「今日から役立つ遊び歌」 I

「ロケット」「UFO」など擬音は子供の自然なつぶやきを入れたり絵も合作の部分もあると言われる。

次にこれを曲集の中から選んであげてみました。

21. ロケット

滝沢てるお 作詞
 浜田直樹 作曲
 たまみゆき 作曲



シンバル

1. 2. 3.

タンブリン
 ホンゴ

さんかくおうちに すむひとは

おおきなおくちで アッハッハ とんがりおみみの ロボットさん

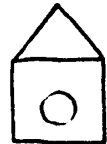
小さいなおめめが キョーロキョロ ラッパふいて ラッパふいて

5 1 宇宙へ 出発！ ズドン

21. ロケット — えかきうた — 滝沢てるお作画



三角お家に住む人は



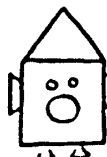
大きなお口でアッハッハ



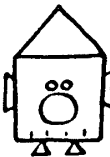
とんがりお耳のロボットさん



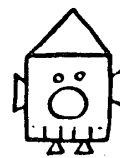
小さなお目めがキョーロキョロ



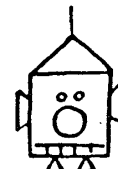
ラッパふいてラッパふいて



5 / 4 / 3 / 2 /



1 /

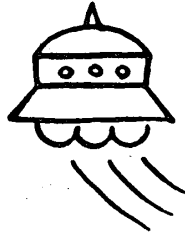


宇宙へ出発！ ズドン

＜ポイント＞
 ここからはメロディーはリズムに合わせて自由にならして下さい。わらべ唄風に3音しか使ってありません。
 リズム楽器を使ってリズム遊びをしましょう。この場合、パネルなどを用意して絵の担当、楽器の担当、歌の担当と、それぞれ役割を決め、どんどん交代してその役割を適確にこなせるように遊んで下さい。
 ロケットの窓を口にしました。なるべく大きく描いて下さい。

22. UFO

滝沢てるお 作詞
 たまみゆき 作曲



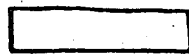
1.
 2.
 3.

 しかくいつみきのまんなかに

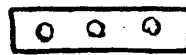
まめつぶみっつのせました ぼうしをかぶせてはりたてて

おやねのうえにのっけたら あっ！ 空を見る！ UFOだ！ ビビビビ……

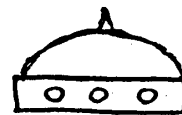
- 打楽器 1. シンバル (マレットで叩く) 低い音のする太鼓など
 2. タンブリン・トライアングル・ハンドカスタなど
 3. コンガ (符尾が下になっているのが左手、上になっているのが右手)



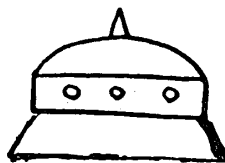
四角いつみきのまんなかに



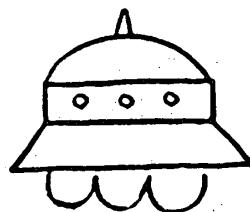
豆つぶ三つのせました



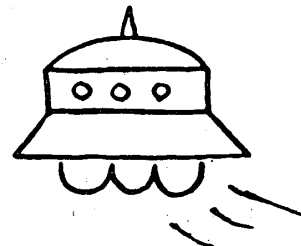
ぼうしをかぶせて 針たてて



お屋根の上へのっけたら



あっ！ 空を見る！ UFOだ！



ビビビビ……

この楽譜をみても、ただの絵書き歌にするだけでなく、打楽器も同時に組みこまれている。打楽器係、歌係、絵係と三つの担当者が仲良く演奏し、歌い、そして書いたりして初めて出来上がる。

これは遊びの中から自然にわきあがる、一つの協調性、即ち社会性を身につけるような配慮が組み込まれている。

以上のように、園での歌遊びの指導でそのクラスの特長も大切にして、指導する目的や方向にはしっかりポイントを置き、展開し、応用したりして教師のアイデアで楽しくのびのびと指導をくり広げればよいのである。

(3) 「幼児のリトミック」

本来、音楽の嫌いな子はいないはずであるからして、この大切な時期に音楽を使って子供の発達を自然な中に助長していくことが必要である。

① 音楽反応

与えられたリズム、旋律、和音を感じとりながら幼児達は即時反応をする。伴奏は、ピアノ、タンブリン、笛、などを用いてもよいのである。

↑ ↑ ↑ ↑ は歩行する ♪ ♪ はかける。♩ ♩ は大股歩行。♩ ♩ はスキップのようにステップでリズムを把握して表現する。また手拍子も組み合わせさせてもよい。

② 想像的活動

これは日常生活の中での自然の変化や、また、動物の特性といったものをイメージ表現をする。

この講座では夏だった事もあって「おばけ大会」というテーマで子供達をリトミック遊戯をさせた。子供達はすごく喜んで動く。初め ♩ ♩ のリズムでもの静かな音楽にのって裏山に行く設定、おばけにおどろき、かけて逃げる、ころぶ、それでもなおかつ怖いもの見たさで近づく、模造紙に書かれた現代マンガのおばけのQ太郎や、一つ目のおばけが壁にはってあるのを見る。

そこで「おばけなんかこわくない」の歌を合唱する。一時間の流れの中に、聴音遊びも含め、子供達は喜んで体全体で受けとめている授業であった。

以上のことを通じて私も次のリトミック遊びを5歳児にと考えてみました。

「春」 5歳児対象

目 標 — 行進、かける、スキップのステップをリズムにのって踏む。

物 語 — 犬、馬、蜂になって動く。

(1) 「犬の散歩」犬さんになって歩きましょう。手をついて這わせる。

↑ ↑ ↑ ↑ 歩くリズム — 時々ワンワンと鳴く。

*伴奏は即興で散歩のイメージに重点をおいて弾く。tempo は歩行の速さで何度も繰り返すだけでなく、高音は小犬さん、低音は父さん犬とか、声をかけながら指導する。

例

小野智子 作曲

- (2) 「犬と馬とかけっこ」牧場で馬さんとかけっこしましょう。
 馬になる子 ♪ ♪ のリズムの時に動く。 ヒヒーンと鳴く。
 犬は ♪ ♪ で歩く。

馬がかける

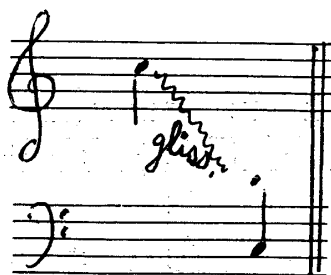
松島つね 作曲

馬 (犬は静かに聞いている)

犬がかける

犬 (馬はやすんでいる)

※時々、glissando. を入れ
そこどころばせる。



(3) 「蜜蜂」犬も馬も空をながめながら休みます。そこへ、蜂が跳んで来ました。

さあ 歌いましょう。

犬と馬に手拍子を歌のリズムに合わせて打たせます。

ボヘミア民謡

ぶん ぶん ぶん

ボヘミア民謡 村野史郎 作詞

Handwritten musical score for a song. It includes a hand-drawn rhythm line at the top labeled "手拍子" (Hand Clap). The score is written on four staves: two treble clefs and two bass clefs. The lyrics are written below the notes.

Lyrics:
ぶんぶん ぶん はちがと ぶん おいけの まわりに
のぼらが さいたよ ぶん ぶん ぶん はちがと ぶん

蜂さんは花をみつけて蜜を吸いに花に止まります。

花になる子は花の形を作って待つ。

(4) 「チューリップ」

歌を皆で歌いましょう。

教育音楽協会 作詞

井上 武士 作曲

さいた さいた チューリップの はなが ならんだ ならんだ
あかしろ きいろ どの はな みても きれいだ な

(5) 「風」そよ風が吹いてきました。

チューリップの花はやさしくゆれます。

小野智子 作曲

Andante

*風のイメージで何度も繰り返す。

(6) 「かえりましょう」犬は馬と蜂に別れを言って ♩ ♩ のリズムで帰る。

小野智子 作曲

これで終り。



以上「春」をテーマに既習の曲を大いに歌わせてリズムにのることに重点をおいた。

これはあくまでも学生がこの程度ならやれるのじゃないかと考えて曲を選んだので他にまだ日常生活にある題材を考慮して遊戯を展開することが園児達に興味を持たせ更に意欲的に反応する結果を生むだろう。一言にして言えることは大人でも、手足を動かしてリトミックを行うことは、神経が大変緊張するが「楽しい」ということであり、幼児にはなお一層意味あることであろう。

参 考 資 料

「新しい幼児の音楽教育」 板野 平 溝上日出夫

「音楽リズム教師用使導書 リズムにのって」 ヤマハ音楽振興会

「今日から役立つ遊び歌」 I 高山佳子